

学生と「人の和」

武蔵工業大学 野村 欽吾

昨今の土木における仕事は極度に分業化され、多人数によって行なわれている。その分化された仕事は全体に対して多大な影響力を持つ。各人は他人の仕事が完全なものと考え自分の仕事をはたしていく（であるから各人の仕事に対する責任は重要なものとなる）。分業化された仕事に対しては総合的、相互的に十分な連絡を必要とされ、またそれが円滑でなければならぬ。そうして全体の仕事を無事に完成させて行くのである。

十分な連絡と各部門での責任を遂行させて行くのに人事管理という具体的な方法があるけれどもそれ以外のものが必要とされると思う。土木の仕事に関してはほかの分野の仕事より従事する人の数は多い。その多人数が同一の仕事をする時に問題となるのは人間関係であろう。その人間関係を自発的に解決するために、「人の和」というものが重要となってくる。いずれは土木技術者になろうとしている学生の学校生活はどうであるか？

理工系技術者不足により大学の理工系学生の定員数は増大化している。そのようなマンモス化した教室では全体的な人間関係は生れにくい。各人が全体に対する責任感が多人数のためうすれ、同時に現代学生のもつ個人中心的思考と自分の域にとじこめるために全体的なまとまりを欠いている。その結果、協同性、協調性が欠け物事に関する連帯責任感が少なくない。

将来、大きな組織の一つの歯車として働くはずの学生が全体的にまとまりのないようでは良い結果を生むはずがあるまい。「人の和」を育てやすい環境をつくり出すことはわれわれ学生には難事であるかもしれない。しかし学生自身の心の持ち方を変えることは学生の間だけで解決される問題であり、十分話し合えば解決されると思う。自分自身のからを破って人の和するようにわれわれは努力すべきである。

法政大学 筒井 信之

社会資本の充実ということがきけば実行されつつある。社会資本を充実するということ事は今の日本にとって絶体に必要なことであるがその内容はというと道路を主とする産業基盤をつくることにその大半を費しているようだ。これには少し問題があるような気がする、というのは産業基盤を建設するということは民間設備投資と公共投資とのアンバランスを是正するという意味においても諸々の地域格差を是正するという意味においても

ぜひとも必要なことはいうまでもないが、もう少しついでで考えると心配になることがある。それは産業道路などの建設によって都市がなるがままに発展したとすると、それは産業の発展ではあるがそこに住む人間にとって大切な種々の生活条件を害することになるかも知れないのである。また雑然と造られてしまった都市の基本的公共施設は簡単には整備できないのである。だから現段階においては民間設備投資を過度に助長しいろんなひずみを生ずるような投資の仕方をせず、まずなによりも産業が発展してもそれに毒されない基本的公共設備（生活基盤）を充実完備することが先行されるべきだと思われる。人間の主体を重んずる社会的合理性が経済的合理性に対し優先されるべきである。

早稲田大学 高部 昇

最近、東京都内のオリンピック関連工事現場において各種の災害が発生し世間の耳目を騒がせている。新聞、ラジオ、テレビなどによって、その原因について論議が斗わされているが、私はこのことについて将来土木工事に従事する者としての考えを述べてみたい。

土木工事の災害について考えるとき、土木事業の有する他産業には見られない特質を考えねばならない。すなわち他の産業においてはその作業が通常、工場内で行なわれ作業にともなう事故がほかの一般社会に影響を与えることはごくまれであること、作業場が恒久的なものであるから保安設備等に十分な投資が行ない得る。これに反して土木事業における作業はその地域の社会活動が実際に行なわれている中で、それと併行して工事を行なわなければならないし、さらにその作業現場は一時的なものであって、その工事の完成後にはすべての設備を撤去せねばならないので、工事に直接関係のない保安設備等には十分な投資が行なわれていない。しかしながら、ひとたび事故が発生すればその復旧、損害賠償等に時間的、経済的ロスを余義なくされるのであるから工法的に、より安全な道を選ぶとともに、保安設備にも万全の構えを取る事が大切である。特に市街地における工事では、事故発生はただちにその地域の社会活動に影響を与えるものであるから十分な配慮が必要である。土木工事に従事する者は、土木工事の目的は公共設備を機能的に改良することによって公共の福祉をはかることであるということ、したがってその工事の課程において、一時的にもせよ社会に不利益を生じせしめることは本来の目的と全く相反するものであることを常に肝に命じておかなければならないと思うのです。